

大鹿村中央構造線博物館たより96号



2017年5月発行

TEL/FAX:(0265)39-2205 E-MAIL:mtl-muse@osk.janis.or.jp

博物館イベント案内

秋葉古道の中央構造線を歩こう！

博物館から大沢まで中央構造線を見ながら秋葉古道を歩きます。

その後、村の送迎車で安康露頭を見に行きます。

日時：2017年6月10日(土) 9時から15時半くらい

集合場所：大鹿村中央構造線博物館 9時

行程：博物館—(徒歩)—城の腰露頭—(徒歩)—引の田断層鞍部—(徒歩)—

松下家前広場で昼食—(徒歩)—大沢—(送迎車)—安康露頭—(送迎車)—博物館

持ち物：歩きやすい靴と服装、雨具、昼食、飲み物

申込先：大鹿村中央構造線博物館 (TEL. 0265-39-2205)

申し込み締め切り：6月4日(日)

参加費無料・雨天中止

主催：大鹿村中央構造線博物館 共催：大鹿村公民館

えんれい

塩嶺溶岩の下の中央構造線はどこにある？

4月15日に伊那谷自然友の会主催のジオツアー「杖突峠^{かさいがん}の火砕岩林道を歩く」に参加しました。伊那市高遠町の中央構造線板山露頭の上から北方を望むと、中央構造線のまっすぐな谷の行く手が、200万年前頃に流れた塩嶺溶岩^{えんれい}に阻まれている様子が見

えます(写真1)。この^{えんれい}塩嶺溶岩に覆われた地域では、内帯の岩石、外帯の岩石共に地表に露出していないため、中央構造線の位置が分かりません。しかしながら、もし、^{えんれい}塩嶺溶岩が堆積した後にも中央構造線のずれ動きがあったとしたら、地形に何か痕跡が見つかるかもしれません。

藤沢川沿いの片倉集落に東から流れ込む唐沢を上流に遡ると、最初は東から西へ流れていたのが、途中で屈曲して北から南向きに変わります。案内人の守屋さんは、ここに中央構造線が南北に近い方向に伸びているのではと^{にら}睨んでいます。ただ、現地の沢の石は^{えんれい}塩嶺溶岩だらけです(写真2)。薄く割れやすく鉄平石として知られている岩です。

次にもう少し上流の方に位置する小ピークに向かいました。ここでは尾根道の途中に不自然にできた^{だんそうあんぶ}断層鞍部に似た地形が見られました(写真3)。しかしながら今の時点では、断層活動による地形であるという証拠が不十分です。今後研究が進めば、新しい発見があるかもしれません。(宮崎)



←写真1：中央構造線の谷は塩嶺溶岩に行く手を阻まれる

↓写真2：黒っぽい安山岩だらけの唐沢



↓写真3：尾根道にある鞍部地形

